



令和元年度 | 2019 | FD・SD 活動報告書

郡山女子大学 | 郡山女子大学短期大学部



2020 年 6 月

学園教育充実研究会

目 次

1. 公開授業・授業検討会（対象指定型） __5

[大学] 公開授業および授業検討会「給食管理学」 __5

[短大] 公開授業および授業検討会「ソルフェージュⅡ」 __7

2. 全授業公開 __10

3. 学園教育充実研究会 [夏の大会] __11

4. 各種研修会・ワークショップ __15

大学食物栄養学科：第1回食物栄養学科セミナー「天然だしのうまみとは何か？」 __16

学園教育充実研究会：第1回FD研修会「データ・サイエンスを使って地域社会を捉える」 __17

教務部：科研費説明会(獲得者経験談) __18

入学事務・広報部/学生募集・入学委員会/特色検討委員会 共催：学科・コース別リーフレット説明会 __19

衛生委員会：メンタルヘルス研修会「どうする？教職員のメンタルヘルス対策」 __20

生涯学習・国際交流委員会/教養・キャリア教育委員会 共催：特別講座「学びとコミュニケーション」 __21

大学食物栄養学科：第2回食物栄養学科セミナー

「オランダナショナルチームに学び学校教育において実践していること」 __22

不正防止委員会：研究倫理教育「研究不正防止のために」 __23

学園教育充実研究会：第2回FD研修会「受講から参加、そして実践へ」 __23

ハラスメント防止委員会：ハラスメント防止講習会「アカデミックハラスメントの具体的事例とその予防」 __24

障がい学生支援委員会：障がい学生支援研修会「高等教育機関における障がい学生支援の取り組み」 __25

大学食物栄養学科：第3回食物栄養学科セミナー「食からはじめる健康づくり ～講習栄養学の視点から～」 __26

5. 事務局職員外部研修 参加記録 __27

事務局長 27 総務部 27 経理部 28 管財部 28 入学事務部 29

教務部 29 学生生活部 30 就職部 30 保健室 31 図書館 31

学園教育充実研究会(SD部門) 31 高校事務室 31 幼稚園事務室 32 家庭寮 32

令和元年度 FD・SD 活動に寄せて

学長 関 口 修

新型コロナウイルス対応に腐心する日々が続いていますが、漸く学生・生徒の登校と共にキャンパス自体が生命体であるが如く生き活きと機能しだしている姿を悦びます。

FD・SDが義務化され、それらの研修が行われるようになりましたが、夫々に求められている意図は専門性の向上にあります。各人が担当している業務内容ばかりではなく関連する業務に精通することです。付言すれば、私たち学園に勤務する者は学生・生徒が安心安全な環境で意義ある学習成果を獲得できるよう尽力することです。

昨今の高等教育改革をめぐるスピードは咀嚼する暇もなく矢継ぎ早で、急激な改革を求めるあまりに消化不良を起こしているのではないのでしょうか。

様々な改革の用語がカタカナ表現となっしまい、趣旨とは異なる方向で機能してはいないのでしょうか。また、事の本質を理解せず誤った方向に政府が強行した専門職大学制度などは将来の禍根となるでしょう。

日本の大学制度は全ての分野について専門性に立脚し、職業分野の教育も適切に実施されているのです。同様に、私立学校は公共的使命を担っていますが、私立学校法の改編は営利追求の企業並みに仕分けされてしまい残念でなりません。

私立学校は云うまでもなく憲法に認められている思想・信条に基づく建学の精神に依拠しており、それ故に特色ある人格形成教育が認められています。因みに国立大学等には特定の建学の精神は認められていないのです。

学校法人として建学の精神に基づく人材養成の責務は私学の根本なのです。互いに切磋琢磨し学生・生徒・園児のために努力しようではありませんか。

本年度のFD・SD 活動を振り返って

学園教育充実研究会 主任 磯部 哲夫

本年度の課題である(1)授業評価アンケートの結果を踏まえた授業改善、(2)授業公開について、(3)研修会の参加について、(4)夏の大会について、の4点について活動を振り返ってみる。

(1)授業評価アンケートの結果を踏まえた授業改善に関しては、授業評価アンケートの結果を分析し、分析結果を直近の主任教授会において報告した。また、前期授業評価アンケートの結果を基に授業改善について、学生の代表とFD部門の委員で参画するFD活動を実施し、各学科主任に報告書を提出し授業改善を促した。(2)の授業公開のであるが、今年度は前期に授業公開と検討会、後期に全授業公開を実施した。各委員が学科内で参観の呼びかけを行ったが、全授業公開においては参加者数が教員の3割ほどで、同じ教員が毎年参加している傾向がみられた。次年度においては、期間を区切らないで実施するなど、別の方策を考える必要がある。(3)の研修会については、今年度は12回の研修会を開催した。FD部門では3回以上、SD部門では2回以上の研修会参加を促すため、各自の研修会の参加状況をグループウェアで公開し、参加回数のガイドラインの確実な実施を促進した。(4)の夏の大会については、計画通り6月末までにFD・SD合同会議で実施内容を決定した。夏の大会のアンケートにおいて、92%(午前の部:91%、午後の部:93%)の肯定的評価(有益、やや有益を併せた割合)を獲得した。

第55回を迎えた「学園教育充実研究会(夏の大会)」のテーマは「教職員の質的向上」と定め、教職員が協力して大学の教育機能・環境の向上に組織的に取り組むため、個々の職能の質的向上を目指す研究会とした。午前の部は、ハラスメント防止委員会との共催で、ハラスメントに関する研修会をFD部門とSD部門の合同で開催した。ハラスメントの事例や被害防止へむけての職場での適切な対応についての講演内容で、日頃聞くことのできない貴重なご講演であり、教職員一同熱心に耳を傾けていた。午後の部のFD部門では、初めに学長先生より、「高等教育無償化と成績評価について」の講演があり、本学の高等教育無償化へ向けての対応、成績評価の在り方等、本学の教員として備えるべき資質・職責が示された。次に12のグループに分かれ、「学生の考える力を引き出す授業の再考」というテーマで、「授業準備」「授業展開」「予習復習」「成績評価」の4項目について、学生の考える力を引き出す授業プランを各グループにおいてディスカッションし、ポスターセッションでは、学生の考える力を引き出す授業プランについて様々なアイデアが発表されていた。SD部門の午後の部は、「働き方改革と私立学校」のテーマで外部講師の講演があり、職員ひとり一人が「働き方改革」の全体像についての理解を大いに深めるとともに、本学としての「働き方改革」実現に向けての端緒となる有意義な研修会となった。

最後に建学記念講堂に集合し、FD部門はポスター発表、SD部門は口頭による実施報告を行い、FD・SDの各部門の成果を共有し合った。教職員の質的向上を目指すには何が必要か、今後の課題と方策を再発見する機会となった。

1. 公開授業・授業検討会（対象指定型）

本学では教員の授業実践力の向上を目的に、学園教育充実研究会発足以来、対象学科を選定し授業公開を行っている。今年度は、大学は食物栄養学科、短大は音楽科が担当対象学科となった。

[大学]

実施概要

- 授業担当者 亀田 明美 先生（大学 食物栄養学科 准教授）
- 科目名 「給食管理学」 テーマ：給食施設における安全・衛生管理について学ぶ
- 開講期 令和元年度 前期
- 公開日時 令和元年 7 月 11 日（金） I 時限目（8:50～10:20）
- 使用教室 62 年館 4 階 642 教室
- 対象学生 食物栄養学科 二年生 76 名
- 参加者数 授業参観 18 名（大学 12 名・短大 6 名） / 授業検討会 10 名（大学 7 名・短大 3 名）

公開授業の概要

1. 公開された授業（本時）のねらい

第 13 回 給食施設における、安全・衛生管理について学ぶ ②

給食の生産管理において配慮すべき安全・衛生管理について、大量調理施設衛生管理マニュアルに示されている事項について学ぶ。さらにマニュアルに示されている事項を実際の給食施設では、どのように運用しているのか理解させることをねらいとしている。

2. 授業内容

- 1) 授業開始の挨拶
- 2) 出席確認
- 3) 概要
 - ①大量調理施設衛生管理マニュアルについてスライドを使った解説
 - ②給食施設における事例確認
 - ③システムめばえを活用した確認テスト
- 4) 講評・終了挨拶



3. 授業検討会：授業担当者による授業内容の振り返り

「給食管理学」の授業は二年次前期の必修科目となっております。この授業では、特定給食施設における給食の意義や役割を理解し、給食運営に必要な「栄養・食事計画」及び各管理方法について学修します。この授業の単位を取得したあと、二年次後期には給食管理実習、さらに三年次前期には、給食管理校外実習として給食施設での実習を行うようにカリキュラムが構成されています。実習への参加要件は、経営管理学、給食管理学、給食管理実習のすべての単位を取得することとなっております。

本日参観いただきました授業は、給食運営に関わる衛生管理の方法として、大量調理施設衛生管理マニュアルの解説を行いました。このマニュアルは給食施設における衛生管理の手法について細かく示されており、その項目数は、合わせて 42 項目になります。このすべてを授業中に学修するのは難しいため、主に給食管理実習を行うために必要な 22 項目を中心に解説を行いました。

講義ではパワーポイントを使用した解説が中心となっています。本日は、15 項目について解説致しました。給食の現場を直接見たことのない学生にとっては、マニュアルの内容を理解するのは難しいことだと思います。そこでスライド作成においてはマニュアルに示された内容を文字で示すとともに、イラストや写真などを加えることで具体的にイメージできるよう工夫致しました。

解説だけですと一方的な授業になってしまいますので、毎回解説の後には簡単なグループワーク活動の時間を設けています。この活動を行っている間、教員は机間指導を行い、学生の話し合いの様子を観察致します。話し合いが活発に行われる班もあれば、他の学生とコミュニケーションを取るのが難しい学生もいる点がこの活動の課題でもあります。

二年次後期に行われる給食管理実習は、グループワークが中心ですので講義科目であっても少しずつグループワークに慣れさせるという意図も込めて実施しています。また、話し合いの様子から、学生が理解できなかったところや疑問に思っている点などを絞り込むことができる貴重な時間となっております。当初は話し合い活動の最後に発表してもらっていましたが、発表者が恥ずかしがったりして発表までに時間がかかることから8回目くらいから学生の意見を吸い上げて教員がフィードバックする形に変えてしまいました。講義科目における話し合い、発表などの活動を取り入れることの難しさを実感しております。さらに、マニュアルに示された内容を給食施設ではどのように運用しているのかについて理解を深めさせるため動画の視聴を取り入れました。動画は YouTube を利用しています。

最後に内容の定着を図るために小テストを実施しております。小テストはシステムめばえにも機能があるのですが私は、グーグルフォームのテスト機能を活用しています。この機能を活用する以前は、授業中に紙媒体で小テストを実施していました。グーグルフォームのテスト機能を活用することで、学生は授業時間以外にも小テストを受験することが可能になりました。受験後はすぐに採点され、学生は各自の得点と間違った箇所を確認することができます。間違った箇所を中心に自己学習するよう指導していますので、講義以外での学修時間の確保につながることを期待しています。教員側の利点としては、採点する手間が省けること。結果の一覧表をダウンロードして個々の点数管理を行えることなどが挙げられます。

この授業は講義に使用する資料が多いので、事前にすべてシステムめばえに UP しておきます。学生はそれを印刷し予習してから授業に臨むよう指導していますが実際に予習までしてくる学生はどのくらいいるのかは把握できておりません。

公開授業検討会のテーマを「システムめばえ『授業支援』機能を活用した学修支援の方策について考える。」とさせていただきます。システムめばえは大変便利な機能を備えていますが、まだすべての機能を活用するには至っておりません。本日お集まりの先生方より、システムめばえの授業支援機能の活用事例をお示しいただき、学生の学修支援のあり方についてさらに深めていけたらと思います。



※検討会では発表者がシステムめばえを使った授業支援についてスクリーンに投影するなどし、また、グーグルフォームのテスト機能についても解説するなどした。参加者はそれを見ながら討論を行った。

[短大]

実施概要

■授業担当者 南川 肇 先生（短大音楽科 講師）・深谷 悠里絵 先生（短大音楽科 講師）

※ブレースメントテストを実施し、習熟度別にクラス分けを行っている。

ブレースメントテスト…テスト対象者の既存の知識などを評価し、対象者が学ぶためにふさわしいレベルのクラスを決めるために行われる試験。

■科目名 「ソルフェージュⅡ」 テーマ:リズム、単旋律、2声・4声の聴音

■開講期 令和元年度 I 期

■公開日時 令和元年 6 月 21 日(金) I 時限目(8:50～10:20)

■使用教室 A クラス(深谷)芸術館 1 階 No.1 芸術館講義室 ・ B クラス(南川)芸術館 3 階 合奏室

■対象学生 音楽科 二年生 9 名

■参加者数 授業参観 13 名(大学 4 名・短大 9 名) / 授業検討会 8 名(大学 2 名・短大 6 名)

公開授業の概要

1. 公開された授業(本時)のねらい

第 11 回 各専門の分野をより向上させる為に、音楽の基礎であるソルフェージュの能力を高める事を目標とし、音を聴き取り、楽譜にする能力を養う。また、グループごとにリズムを作成し授業内で発表しあい、理解を深める。

2. 授業内容

A クラス(深谷)

1) 授業開始の挨拶(前回までの振り返りなど)

2) 出席確認

3) 概要

A)単旋律の聴音(F-dur、G-dur)

B)グループで作成したリズム打ち

C)へ音記号の旋律聴音(C-dur)

D)2 声聴音(d-moll)

E)3 声(密集)聴音

4) 講評・終了挨拶

B クラス(南川)

- 1) 授業開始の挨拶(前回までの振り返りなど)
- 2) 出席確認
- 3) 概要
 - A)リズム聴音を行い、拍子によるリズムの表記の仕方を確認する
 - B)単旋律、2 声旋律聴音 C)3 声の和声聴音
- 4) 講評・終了挨拶

【Aクラス（深谷先生の授業の様子）】



【Bクラス（南川先生の授業の様子）】



3. 授業検討会:授業担当者による授業内容の振り返り

【発表者 1（深谷先生）】

「ソルフェージュ」の授業は一年次の必修科目となっており、「音楽の総合的な基礎知識を伸ばす」ことを目的として設定されています。これまで音楽科や音楽学校に入学するためには、ソルフェージュの試験が必ずありました。しかし近年入試の種類によっては、演奏技術や理論の試験を主とする学校もあり、その試験自体が省かれる傾向となっています。本学の音楽科もソルフェージュの試験がないため、入学時にはソルフェージュをやったことがない学生もいました。反対に、小さいころからピアノや器楽と一緒にソルフェージュを習っていた学生は、入学するに当たり本学の夏期講習に参加して事前に学習を始める学生など、取り組み方は様々で、少人数とはいえ、1 つのクラスで全員同じ問題を解いていくには差があり過ぎるという状況でした。そのため入学後にテストを行い、2クラスに分けています。本来であれば、得意とするクラス、苦手とするクラス、中間層と3つに分けることが理想ですが、教員が少ないため2クラスにしか分けられず、調整しながら取り組んでいるのが実情です。

私の担当する A クラスは、比較的問題に慣れている学生がいます。しかし、5 名のうち 2 名はどんな問題でも苦労することなくスムーズに書き取れますが、3 名は少し変わったリズムや臨時記号が出てくると時間がかかってしまう。その差をどのように解消するか、どんな工夫が必要か向き合っていかなければならないことが課題の一つです。どうしたら少しでもステップアップできるか、毎週課題をみて、模索しています。同じ科の教員に相談をするなどして、アドバイスをもらいながら取り組んでいます。

今日の授業で行った書き取れる学生 2 名には、4 小節単位で記憶し、その後書き記すという問題も取り入れるようにしています。書いている間に、机間巡視をし、他の 3 人のノートを確認し、ヒントとなるきっかけを何か伝えられればと思っています。また、採点の仕方は、自分の回答を書いて教員に見せる方法と、学生に板書してもらう方法の二つを用いており、先にできた学生はできていない学生とリズムの確認をしているところも見受けられ、学生同士で考える時間も自然とできているように感じます。

ソルフェージュの時間はどうしても、ピアノを弾いて学生がノートに書きとり、確認するという一方通行の授業になりがちなので、2 人や 3 人のグループに分かれて、今まで取り組んできたリズムやそれを応用して難しいリズムを用いるなどして、それぞれ作成し、お互いリズム打ちをしあって、考えを深める時間も設けています。また、自分で作成することによって、1 拍にはどんなリズムが入るのか、どんなリズムが考えられるのかを確認する時間にもなることがわかり、取り入れるようにしています。

今回の授業内容として、「リズム、単旋律、2 声、4 声の聴音」とのことでしたが、前回までの授業を踏まえ、バスパートが取りづらそうだったこと、学生から、ヘ音記号のパートが聞き取りにくいとの申し出があったことから、2 声までの内容にプラスして、ヘ音記号の旋律と 4 声の導入として 3 声の問題を取り入れた内容となりました。計画通りに行うことができなかったことも反省の一つですが、少人数だからこそ、そのメリットを活かしつつ学生の声も聞きいれて、それぞれの専攻楽器や他の実技授業でもつながる内容に、次回以降の授業でも展開していきたいと思っています。

【発表者 2（南川先生）】

演奏がすばらしくてもソルフェージュができない学生がいます。学生時代にしか、現職の教員もやってないのではないかと思います。ほとんどは今の時期にしかやらないものです。しかし、四年制大学の音楽科に編入する学生には必要な科目であることは間違いありません。

B クラスはソルフェージュの経験がない学生が多いクラスです。ほとんど書けない。「音はわかるけど、書き方がわからない。リズムの取り方がわからない」学生と、「音をとれない」に分けられる。深谷宣氏が担当している A クラスの学生はだいたい書けます。また、聴音の書き方自体がわからない学生がいます。A クラスにはソルフェージュを全くやったことの無い学生がいますが、メロディーはわかるため、書き方を教えればすぐに理解し、書けるようになりました。音の取れない学生に、音の高さをわかるようにするのは難しい。予習をしてわかるようにして来いと言われてもなかなか難しい。ソルフェージュの修業は自習しにくいのです。また、レベルの差がすごい。できる学生にとっては簡単な授業ですが、できない学生にとっては全然できない授業です。できない学生に、来週まで追いつくように勉強してくるように、とは言いにくい授業であることは確かです。レベルごとにもっと細かく分けられればいいのですが、教員数の関係で難しく、限られた授業の中で、才能、能力の差をどのように埋めていくか、どのような授業をやっていけばいいか、いつも迷っています。



授業後に行われた授業検討会の様子

2. 全授業公開

公開者を限定して授業を公開し、授業検討会で授業に対する認識を深めていくのに対し、全授業公開では、全員が授業を公開する。また、授業への参観は職員も受け入れている。

I. 背景と目的

- (1) 全教員の授業力のさらなる向上
- (2) 全教職員の相互扶助の精神によるFD・SD 活動の実現

II. 公開方法

■公開時期

[今年度] 後期:11 月第 4 週～12 月第 1 週の 3 週間 (11/28～12/6)

一般的には第 9 回～11 回の授業

■公開について

- ① 「公開免除の規定」により免除されない限り、全ての自身の授業を公開する。
- ② 参観者から事前の連絡が欲しい場合、注意事項がある場合、特別な理由などにより非公開の場合は、その旨をグループウェア上にあるスケジュールの「メモ欄」に記入する。
- ③ 上記②の記入は当該授業日の 1 週間前までに行う。
- ④ 参観者があった場合は、公開期間終了後に参観者名簿を教務部に設置の提出 BOX に提出する。

■参観について

- ① 教員、職員ともに期間中の参観を任意とする。
- ② 参観 1 回につき研修会参加 1 回分としてカウントする。
※参観の有無(回数)は提出された参観者名簿より、学園教育充実研究会が集計する。
- ③ 参観する際には、参観者名簿に記帳し、授業終了後には、感想用紙を授業担当者に提出する。
- ④ 参観は授業開始から終了までを原則とするが、2 時限連続の授業等においては 1 時限分のみでも可とする。

III. 全授業参観者数

- ① 教員 大学 18 人 短大 15 人
- ② 職員 なし



○講義科目「食品学Ⅰ」(大学_食物栄養学科)



○演習科目「CG 基礎Ⅱ」(短大_地域創成学科)

3. 学園教育充実研究会 [夏の大会]

学園教育充実研究会(大会)は、昭和 44 年(1969 年)より、学園の教育力の向上と教職員の相互連携を目的として半世紀近くにわたって実施されてきた教員および職員の研修大会である。

発足から 50 年という節目を迎えた令和元年度は「教職員の質的向上」というテーマで実施した。午前の部は「職場におけるハラスメント～加害者にも被害者にもならないために～」と題した講演を実施し、午後の部は FD 部門と SD 部門に分かれてワークショップや研修会を開き、互いの研鑽を図った。

FD 部門は、アセスメントポリシーに基づき、『学生の考える力を引き出す授業の再考』というテーマで、「授業準備」「授業展開」「予習復習」「成績評価」の4項目についてグループディスカッションを行い、ポスターセッションを行った。

SD 部門は、労働環境を大幅に見直す取り組みの「働き方改革」について、社会保険労務士の講演会を実施し、改めて「働き方改革の」の目的や取り組みを進める上での私立学校における課題などについての理解を深める場とした。

■実施日程 令和元年 9 月 6 日(金) 9:45～16:30

■会 場 本学園（建学記念講堂小ホール、ギャラリー・ホワイエ、創学館 2 階 521 講義室）

■参加者 FD 部門 大学教員 36 人、短大教員 45 人

SD 部門 事務局職員(高校事務局を含む) 54 人 計 135 人

【令和元年度 学園教育充実研究会（夏の大会）プログラム】

企 画		時 間	内 容
開会式		9:45～10:00	学園長挨拶・学園教育充実研究会主任挨拶
午前の部 ・ハラスメント防止委員会共催		10:00～11:30	ハラスメントに関する講演 「職場におけるハラスメント ～加害者にも被害者にも貼らないために～」 講師 高橋久善氏(弁護士/弁護士法人クレイス法律事務所)
午後の部	FD 部門	12:30～15:30	I. 学長「高等教育無償化と成績評価について」 II. 学園教育充実教育研究会主任 「グループディスカッションについて」 質疑応答 および 午前午後のインフォメーション
	SD 部門	13:00～15:00	III. グループディスカッション 1)テーマ 「学生の考える力を引き出す授業の再考」 2)班編成 12 班 (講義 7 班、実技 2 班、実験実習 3 班) 3)検討項目 以下の課題・問題・解決方法などを話し合う ①授業評価 ②授業展開 ③予習復習 ④成績評価 4)ポスターセッション
閉会式		16:00～16:20	SD 部門実施報告 講評・学園教育充実研究会主任挨拶

■開会式 9:45～10:00 建学記念講堂小ホール



■午前の部 10:00～11:30 建学記念講堂小ホール

ハラスメントに関する講演（共催：ハラスメント防止委員会）

「職場におけるハラスメント ～加害者にも被害者にもならないために～」

講師 高橋 久善 氏（弁護士/弁護士法人クレイス法律事務所）



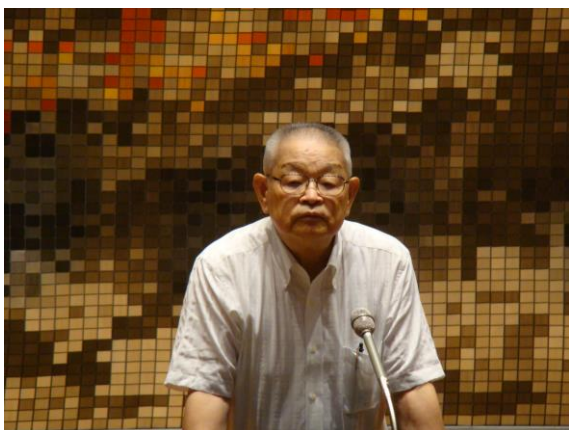
■午後の部

[FD 部門] ワークショップ 12:30～15:30 建学記念講堂(小ホール・ギャラリー・ホワイエ)

I. 基調講演「高等教育無償化と成績評価について」

郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部 学長 関口 修 氏

II. 「グループディスカッションについて」 学園教育充実研究会 主任 磯部 哲夫 氏



Ⅲ. グループディスカッション

- 1) テーマ 「学生の考える力を引き出す授業の再考」
- 2) グループ 「講義(7班)」、「実技(2班)」、「実験・実習(3班)」 各班 6 名程度で構成
- 3) 課題とゴールの共有

「授業評価」、「授業展開」、「予習復習」、「成績評価」の4項目について、ファシリテーターの進行のもと話し合いを行った。班ごとに課題や問題について共有し、解決方法等について模索した。
また、ディスカッションの成果をポスターでどのように表現するかについても検討を行った。



4) ポスターセッション

完成したポスターを壁面に貼り、全員で自由に閲覧した。優れた内容だと思われるポスター2枚を選び、事前に配布されたシールを添付した。ポスターは SD 部門の職員も閲覧し、感想等を述べ合った。



〔SD 部門〕 外部講師による研修会 13:00～15:00 創学館 2 階 521 講義室

「働き方改革と私立学校」 講師 曾田 究 氏 （社会保険労務士 曾田事務所 所長）



■閉会式 16:00～16:20 建学記念講堂小ホール

1. SD 部門 実施報告 学園教育充実研究会 副主任 横田 英隆 氏

2. 講評



〔夏の大会に対する参加者の感想（抜粋）〕

設問① 午前の部 ハラスメントに関する講演について

- ・ハラスメントはとても難しい問題だと再認識しました。学生や教員が関わった事例を示していただけたらより良かったと思います。
- ・具体事例を根拠にしたお話で、分かりやすくよかったです。ただ、もう少し女子大と地方の私立大学に関する特色が盛り込まれていれば、なお充実したものになったように感じました。
- ・人間関係とコミュニケーションの大切さを改めて実感し、仕事がしやすい環境づくりも大切だと思いました。さらに、より良い学園になるよう定期的にハラスメント講習は必要なのではと感じました。

設問② 午後の部 SD・FD 各部門の内容について

- ・学園長先生の話を受けて評価について学部学科で統一するという話し合いの方がよかったのではないのでしょうか。
- ・ワークショップで作成したものが、今後どのように活かされる可能性があるのか示されるとよいと思う。（実際に使われる案として検討されるか、など。）
- ・SD 部門の研修では、法律に沿った細かい説明のところが理解できない点もありましたが、勉強になりました。

設問③ 夏の大会全体に対して

- ・ワークショップより分科会などで議論する場を設けていただく方が有意義ではと思います。
（例：他学科間、教員側と事務職員側、その他）
- ・分野を超えた数理、データ・サイエンス教育や、データ・サイエンスが社会においてどのように活用しうるかをテーマとした授業の内容及び方法の改善を図るための FD 活動が必要だと思います。
- ・企画、運営等、お疲れ様でした。50 年の伝統がある、FD・SD の研修が自主的にテーマ設定されているのだとすれば素晴らしいことと思います。他の学科の先生や教職員の垣根を越えて、共通テーマで話すなどの機会があると面白いのではないか、という気もしました。

4. 各種研修会・ワークショップ

本学では、平成 24 年度から「各種研修会」を導入し、徐々に実施回数を増やすなどの試みを重ねてきた。平成 26 年度からは研修開催主体の他部署・委員会への開放や、年間参加回数ガイドラインの導入を行っている。各委員会が主催して、本年度も活発に各種研修会が実施された。

	日程	タイトル および 講演者	主 催	出席(人)
1	5/15	第 1 回 食物栄養学科セミナー 「天然だしのうまみとは何か？」 講師 高橋 徹 氏（大学食物栄養学科准教授）	大学食物栄養学科	23
2	9/24	第 1 回 FD 研修会 「データ・サイエンスを使って地域社会を捉える」 講師 高橋 徹 氏（大学食物栄養学科准教授）	学園教育充実研究会 FD 部門	28
3	9/10	科研費説明会（獲得者経験談） 講師 山口 猛 氏（短大地域創成学科 准教授）	教務部	35
4	10/9 10/24	第 1 回 学科・コース リーフレット説明会 第 2 回 学科・コース リーフレット説明会 学長 関口 修 氏、特色検討委員会委員長 小松太志氏 および 各科委員 8 名、入学事務・広報部 山内啓子氏、(株)リクルートマーケティングパートナーズ 平岡雄太郎氏	入学事務・広報部 学生募集・入学委員会 特色検討委員会 共催	104 第 1 回__71 第 2 回__33

5	10/23	メンタルヘルス研修会 「どうする？教職員のメンタルヘルス対策」 講師 茶谷 穰治 氏（福島産業保健総合支援 センター・公認心理師）	衛生委員会	28
6	11/5	特別講座「学びとコミュニケーション」 講師 神戸 正博 氏（ヴォルテックス所属 カウ ンセラー・セミナー講師）	生涯学習・国際交流委員会 教養・キャリア教育委員会 共 催	10
7	11/27	第2回 食物栄養学科セミナー 「オランダナショナルチームに学び学校教育において 実践していること」 講師 佐藤 浩明 氏（大学食物栄養学科准教授）	大学食物栄養学科	20
8	12/30	研究倫理教育「研究不正防止のために」 講師 坂上 茂 氏（不正防止委員会委員長/ 短大健康栄養学科教授）	不正防止委員会	23
9	2/5	第2回 FD 研修会「受講から参加、そして実践へ」 講師 後藤 あや 氏（福島県立医科大学総合 科学教育研究センター教授）	学園教育充実研究会 FD 部門	22
10	2/27	ハラスメント防止講習会 「アカデミックハラスメントの具体的事例とその予防」 講師 鶴 恵 氏（精神保健福祉士 あさかストレス ケアセンター）	ハラスメント防止委員会 学生生活部 共催	41
11	3/9	障がい学生支援研修会「高等教育機関における障 がい学生支援の取り組み」 講師 菊池 紀彦 氏（三重大学教育学部教授）	障がい学生支援委員会 学生生活部 共催	41
12	3/11	第3回 食物栄養学科セミナー「食からはじめる健 康づくり ～公衆衛生学の視点から～」 講師 星 千歳 氏（大学食物栄養学科准教授）	大学食物栄養学科	20
			総計	395

各種研修会・ワークショップ【報告書】

1. 第1回食物栄養学科セミナー「天然出しのうまみとは何か？」

天然だしとうま味は謎に包まれています。例えば、トマト入りのスープを作る際、トマトを炒めた後にスープに加える方が炒めないでトマトを加えるよりもスープのうま味は強くなります。炒めた方がグルタミン酸が増えるということはありません。そのため、グルタミン酸で天然だしとうま味を説明できそうにないように見えます。また、味噌汁を作る際、最後の段階に味噌を入れる方が、長時間煮詰めた味噌汁よりもうま味が強くなると感じる人が多いです。グルタミン酸は100℃ではほとんど分解されないため、味噌汁を作るときもほとんど分解されないと考えられます。味噌汁の例

も、グルタミン酸で天然だしのうま味を説明するのは難しいと感じる例です。なお、うま味成分として有名なグルタミン酸ナトリウム(味の素)については天然だしには存在しない物質なので、味の素で天然だしのうま味を説明することはできません。

一方で、うま味の定義は、時代とともに変化してきました。グルタミン酸ナトリウム(味の素)の味をうま味とする定義から、フレーバーを増強する味をうま味とする定義への変化です。このうま味の定義が難解なので、「理解可能な天然だしのうま味の定義」を求めてうま味の研究を行ってきました。まず、天然だしの成分を分離して、うま味を感じる成分がどの分離画分にあるのかを官能試験で明らかにしました。うま味の認知が脳で行われていることが官能試験の結果から予想することができました。そのため、天然だしの各分画を飲んだ際の脳の賦活化部位を fMRI で測定しました。賦活化部位測定の結果から、うま味を最終的に認知する脳部位を同定したと考えております。その部位は脳の中で判断をつかさどる部位です。

天然だしを飲んだ時の脳の中のシグナルの伝達経路も見ってみました。うま味を強く感じている際、味覚野は必ずしも大事でないことも明らかになってきました。味覚野とは、味蕾から味に関するシグナルが入力される部位等です。つまり、天然だしを飲んでうま味を感じている際に、味覚物質の存在は必須ではないのです。天然だしのうま味は、最終的に味として脳で判断されるという複雑な過程を経て認知されていると考えております。

また、天然だしのうま味に関する成分について GS/MS で分析もしました。天然だしのうま味を呈する主な成分を同定しつつあります。同時に、うま味に関する相乗効果に関する脳基盤研究から減塩に関する研究も行いました。以上の結果の一部を学科セミナーで紹介させていただきました。

■主催 大学食物栄養学科

■日程 令和元年 5 月 15 日(水) 16:10～17:40

■会場 創学館 2 階 521 講義室

■講師 高橋 徹 氏 (大学食物栄養学科准教授)

■参加者 大学 19 名 短大 2 名 事務局 2 名 計 23 名

■実施内容 (抜粋)

- (1) グルタミン酸やアミノ酸とうま味の関係
- (2) なぜ天然だしなのか？
- (3) うま味の定義とは？
- (4) 天然だしのうま味を呈する成分は？
- (5) 天然だしのうま味を感じる部位は？
- (6) 減塩効果が高い天然だし成分は？
- (7) 合わせだしはなぜうま味が強いのか？
- (8) 天然だしのうま味を惹起させる成分の候補
- (9) グルタミン酸とグルタミン酸ナトリウムの味は同じ？



2. 第1回 FD 研修会「データ・サイエンスを使って地域社会を捉える」

データ・サイエンスとは、データを用いて社会に有益な知見を引き出すアプローチであり、地域社会を見る一つの手法である。社会はとても複雑で簡単には理解に苦しむことが多い。そのような時にデータ・サイエンスに頼ると何らかのヒントをもらえることがある。近年データ・サイエンスが注目される背景には第三次 AI ブームがあり、Google や Amazon の躍進がある。データ・サイエンスの背景、手法、事例、ソフトを含めて、データ・サイエンスの紹介を中心に紹介をした。

■主催 学園教育充溢研究会 FD 部門

■日程 令和元年9月24日(火) 16:10~17:20

■会場 創学館2階521教室

■講師 高橋 徹 氏 (大学食物栄養学科准教授)

■参加者 大学13名 短大14名 事務局1名 計28名

■実施内容

- (1) 統計学の認識の変化とデータ・サイエンスの周辺領域の全体像を図式化して明示
- (2) AIとデータ・マイニング(機械学習)の共通点と違いについて
- (3) 統計学の書籍紹介と現在の生活に用いられているデータ・マイニングの例を説明 (コピー機の故障個所表示、指紋認証、特許の可視化、Siri、OK Google など)
- (4) データ・マイニングの手法によるビッグ・データの解析について
- (5) 各種統計ソフトの機能と価格、計算速度、市販の書籍の有無など7つの指標からおすすめ度を紹介
- (6) データ・マイニングを使用した事例紹介 (実際の研究例を提示)



3. 科研費説明会【獲得者による経験談】

2019 年度の科研費応募にかかわる事項について、文部科学省及び日本学術振興会主催の科学研究費助成事業公募要領等説明会の資料をもとに、科研費獲得者からの経験談を聞く機会とした。

■主催 教務部

■日程 令和元年 9 月 26 日(木) 16:10～17:40

■会場 創学館 2 階 521 講義室

■講師 山口 猛 氏（短大地域創成学科准教授）

■参加者 大学 19 名 短大 15 名 事務局 1 名 計 35 名

■実施内容（抜粋）

(1) 科研費応募の実績と考え方の変化について

日常業務(授業・アドバイザー等)や本学の環境に適応できる無理のない研究テーマへの転換について、考えを述べた。具体的には、これまではシステム開発などの研究分野に興味を持っていたが、全てを捨て切り、学修支援へ転換した。マインドマップを軸として、能動的学修や学修評価を含めながら、昨今の学習支援のトレンドに準ずる内容としたことを、スライドに資料を提示して説明した。

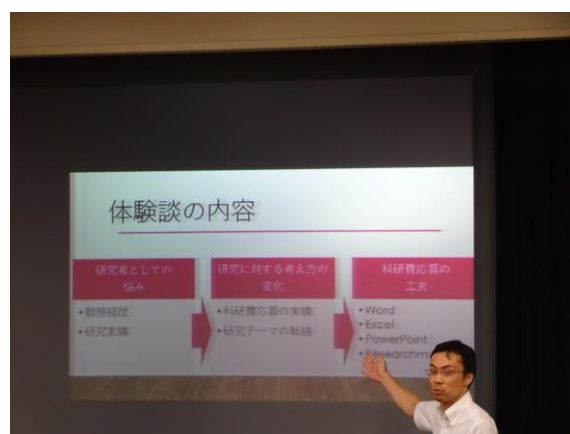
(2) 科研費応募書類作成における工夫

Word・Excel・PowerPointの標準機能の効果的な使用法を解説した。

具体的には、「Wordのフォント設定(重要箇所を太字)、インデント。行間設定による視覚的メリハリ」「Excelの白黒対応グラフの設定」「PowerPointによる挿絵の作成やコツ」について、スライドに資料を提示して説明した。

(3) RESEACHMAPの作成のコツ

各項目の入力状況について、実際にRESEACHMAPの画面を表示しながら、説明した。特に、充実&更新や読みやすさを追求した概要入力必要性について説明した。



4. 学科・コース別 リーフレット説明会

今年度作成された各学科・コース別リーフレットについて、その内容や高校訪問での使用方法について特色検討委員会所属の各教員より説明・解説を行った。

■主催 入学事務・広報部 / 学生募集・入学委員会 特色検討委員会 共催

■日程 第1回 2019年10月9日(水) 第2回 2019年10月24(木) 16時10分～17時40分

■会場 創学館 2 階 521 講義室

■講師 特色検討委員会 委員長 小松 太志 氏

大学人間生活学科

難波 めぐみ 氏(生活総合コース)、熊田 伸子 氏(福祉コース)、長田 城治 氏(建築デザインコース)

大学食物栄養学科 高橋 徹 氏(食物栄養学科) 短大健康栄養学科 金子 依里香 氏

短大幼児教育学科 柴田 卓 氏(第 1 回)・伊藤 哲章 氏(第 2 回)

短大地域創成学科 佐藤 愛未 氏 入学事務・広報部 山内 啓子

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 平岡 雄太郎 氏

■参加者 第 1 回 71 名(大学 32 名 短大 30 名 事務局 9 名 小計 71 名)

第 2 回 33 名(大学 11 名 短大 14 名 事務局 8 名 小計 33 名) 総計 104 名

■実施内容 (抜粋)

始めに、学長より高校訪問の意義についての講演があった。次に特色検討委員会所属の各委員より、今年度作成された各学科・コース別リーフレットについて、それぞれの学科についての内容や高校訪問時における使用方法等について説明・解説を行った。また、入学事務・広報部より高校訪問に関するお願いと訪問先での話題提供について解説を行った。

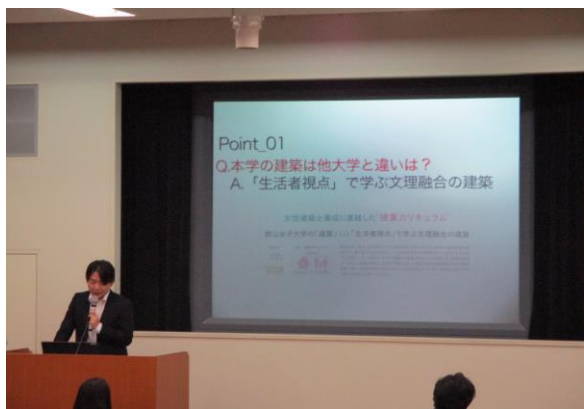
最後に、株式会社リクルート・マーケティングパートナーズの平岡氏より、学生募集時のリーフレット活用方法について説明がなされた。



学長 関口 修 氏



特色委員会委員長 小松 太志 氏



長田 城治 氏(大学人間生活学科建築デザインコース) 柴田 卓 氏(短大幼児教育学科)



5. メンタルヘルス研修会 「どうする？教職員のメンタルヘルス対策」

教職員に対するこころの健康問題に関する研修会を実施した。講師の茶谷 穰治氏は公認心理師の免許を取得されており、実務面でも活躍されている。法的・医学的なことのみならず、現場における実践的な内容についても紹介していただいた。

■主催 衛生委員会

■日程 令和元年 10 月 23 日(水) 16:10～17:40

■会場 創学館 2 階 521 講義室

■講師 茶谷 穰治 氏（公認心理士 福島産業保健総合支援センター）

■参加者 大学 16 名 短大 7 名 事務局 5 名 計 28 名

■実施内容（抜粋）

- (1) メンタルヘルス不調とは何か？
- (2) メンタルヘルス対策の取り組み状況はどうなっているの？
- (3) 事業主は労働者の健康に配慮する義務を有する。
- (4) 職場でのメンタルヘルスカアのポイントについて。
- (5) 職場復帰支援のポイントについて。



6. 特別講座 「学びとコミュニケーション」

生涯学習・国際交流委員会では、生涯学習講座に参加していただいている一般市民の方や本学在学生在が学びをいかした豊かな生活を送るための支援として、特別講座（公開講演会）を実施した。下記の外部講師を招き、「学び続ける姿勢」をテーマとして、今年度は「学びとコミュニケーション」についてお話しいただいた。特別講座は昨年度に続き 2 回目となる。コミュニケーション力が大事といわれることを受けて話されたご講演に、受講生は熱心に耳を傾けてより充実した生活のための学びを深めた。講座には生涯学習や国際交流語学講座受講生も参加した。

■主催 生涯学習・国際交流委員会 / 教養・キャリア教育委員会 共催

■日程 令和元年 11 月 5 日(火) 14:30～16:00

■会場 創学館 2 階 521 講義室

■講師 神戸 正博 氏（ヴォルテックス所属 カウンセラー・セミナー講師）

※昨年度の「キャリアデザインⅠ」外部講師として1回授業をご担当され、昨年度の特別講座でもお話しいただいた。

■参加者 大学 7 名 短大 3 名 事務局なし 計 10 名

■実施内容（抜粋）

演題の「学びとコミュニケーション」について、学びを共有できる仲間、楽しく学び合う仲間づくり、学びをプレゼンする場づくりなどのお話があり、聴講していた方々どうしの話し合いもまじえて、お話とともに聴講された方々が、自らが考えるなげかけなどによって進められていった。

学びを深めるコミュニケーションについて、質問する力が伸びれば「英知」にかわっていくこと、“何のために学んでいるのか”を日々問いかけると学びが深くなると話され、そののちアウトプット・フィードバック・アンラーニング・クリエーションの話と展開していった。学んでいくことの大切さが示され、興味をもって学習を続けることのすばらしさについて話された。会場では、講師の誘導で時間いっぱい、互いに話したり、投げかけに答えたり、質問をしたりしていた。



7. 第2回食物栄養学科セミナー

「オランダナショナルチームに学び学校教育において実践していること」

オランダナショナルチームで出会った監督から学んだ事を大きく4つに分けた。まず選手をリスペクトすること、お互いに助け合うことが必要なのです、それには確かな理論、準備等の指導法があり、1つがpositive thinkingです。しかしその中でもっとも大切な要素が情熱です。

どんな仕事でもこの情熱が無いと何も始まりません。私のphilosophyを発表しました。

■主催 大学食物栄養学科

■日程 令和元年11月27日(水) 16:10～17:40

■会場 創学館2階521講義室

■講師 佐藤 浩明 氏（大学食物栄養学科准教授）

■参加者 大学14名 短大4名 事務局2名 計20名

■実施内容（抜粋）

- (1) 選手をリスペクトすること
- (2) データに基づいた理論的指導と準備
- (3) Positive thinking
- (4) 成功のピラミッド



8. 研究倫理教育「研究不正防止のために」

本学における研究倫理教育として、不正防止に関する規定等の理解を促し、研究活動における不正防止を呼びかける機会とした。

■主催 不正防止委員会

■日程 令和元年 10 月 30 日(水) 16:10～17:00

■会場 創学館 2 階 521 講義室

■講師 坂上 茂 氏（不正防止委員会・委員長 短大健康栄養学科教授）

■参加者 大学 13 名 短大 6 名 事務局 4 名 計 23 名

■実施内容（抜粋）、

- (1) 研究倫理 e-ラーニングコース(eL CoRE)の受講について
- (2) 郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部の不正防止に関する規定等について
- (3) 公的資金に係る不正事例について（文部科学省資料）



9. 第 2 回 FD 研修会「受講から参加、そして実践へ」

母子保健(家族計画、育児支援)、ヘルスリテラシー、人材育成、国際保健、疫学をご専門とする福島県立医科大学総合科学教育研究センター 後藤あや教授をお招きした。近年では、福島県内の保健師を対象としたヘルスリテラシーのワークショップを各地で開催し、受講生にわかりやすい表現や解説が評判を得ている。今回は学生にどの

ように授業を展開するとわかりやすいのか、授業に興味を持って主体的に関わる姿勢を作る仕組みづくりについて、アクティブラーニングの視点を盛り込んで教授いただいた。

■主催 学園教育充実委員会 FD 部門

■日程 令和2年2月5日(水) 10:30～11:45

■会場 創学館2階521講義室

■講師 後藤 あや 氏（福島県立医科大学総合科学教育研究センター教授）

■参加者 大学20名 短大2名 事務局なし 計22名

■実施内容（抜粋）

- (1) 実際に看護学部実践している授業を体験・参加する。
- (2) 統計学の授業で、アクティブラーニングをどのように組み入れているか。
- (3) ハーバード大学での実践例について。



10. ハラスメント防止研修会「アカデミックハラスメントの具体的事例とその予防」

過日、第55回学園教育充実研究会[夏の大会]において、高橋久善弁護士による講演「職場におけるハラスメント～加害者にも被害者にもならないために～」が行われた。今回はそれに続く内容として企画し、郡山市市民部男女共同参画課「さんかく教室」からの精神保健福祉士を講師として招き、「コミュニケーションを考える-ハラスメントがない学校、そして職場とは-」という内容でお話いただいた。

講習会の目的は、①ハラスメントとなり得る行為や言動について理解を深めること、②自分自身の日頃のコミュニケーションを振り返ること、③学生と教職員同士でより良い関係を築くために大切なことを確認する、以上3点であった。事例について話し合うグループワークも実施するなど、大変充実した内容となった。

■主催 ハラスメント防止委員会 学生生活部 共催

■日程 令和2年2月27日(木) 15:00～16:30

■会場 創学館2階521講義室

■講師 鶴 恵 氏（あさかストレスケアセンター精神保健福祉士）

■参加者 大学13名 短大21名 事務局7名 計41名

■実施内容（抜粋）

- (1) 様々なハラスメント

- (2) ハラスメントとなり得る行為や言動
- (3) セクハラやパワハラを意識・行動セルフチェック
- (4) グループワーク（指導のあり方）
- (5) 注意すべき言動
- (6) 良好な人間関係を築くために



11. 障がい学生支援研修会「高等教育機関における障がい学生支援の取り組み」

今年度は、外部講師として三重大大学の菊池紀彦先生をお招きしました。菊池先生は三重大大学の障がい学生支援体制を、ひとつひとつ作り上げたご経験をおもちです。そのノウハウを学ぶことで、本学のシステムづくりの方向性に大きな示唆をいただきました。

■主催 障がい学生支援委員会 学生生活部 共催

■日程 令和2年3月9日(月) 14:00～16:00

■会場 創学館2階521講義室

■講師 菊池 紀彦 氏（三重大大学教育学部教授）

■参加者 大学11名 短大25名 事務局5名 計41名

■実施内容（抜粋）

- (1) 合理的配慮について
- (2) 授業発信型の障がい学生支援について
 - 障がい学生、支援学生向けの全学開講授業「障がい学生支援実践」の紹介
- (3) 三重大大学における障がい学生支援の取組について→ 障がい学生支援室発足前と、発足後の取組
- (4) まとめと今後の課題



12. 第3回食物栄養学科セミナー「食からはじめる健康づくり ～公衆栄養学の視点から～」

健康管理を重要な経営課題の1つとして、従業員の健康保持や健康増進を目的とした企業側の積極的な取り組みは、コストではなく将来の投資である、という考え方が主流になっている。本セミナーでは、公衆栄養学の視点から食を通じた健康づくりについて説明し、マネジメントサイクルに基づいた健康づくりの実践に向けたプランを紹介した。

■主催 大学食物栄養学科

■日程 令和2年3月11日(水) 16:10～17:00

■会場 創学館2階521講義室

■講師 星 千歳氏（大学食物栄養学科講師）

■参加者 大学17名 短大なし 事務局3名 計20名

■実施内容（抜粋）

- (1) 健康経営とは
- (2) 公衆栄養学とは
- (3) ライフステージ別・成人期
- (4) マネジメントサイクルを活用した健康づくり



5. 事務局職員 外部研修参加記録

事務局職員においては学内研修だけでなく、外部団体主催の研修に参加することが SD 活動においても重要である。本年度の各部署の外部団体主催の研修会への参加状況をまとめた。

■事務局長

今期該当なし

■総務部

	件 名	主 催	期 日	会 場	出 席
1	平成31年度学校基本調査の説明会	文部科学省生涯学習政策局	2019/4/16	東北大学片平さくらホール	1名
2	高等教育費負担軽減新制度説明会	日本私立短期大学協会	2019/4/26	アルカディア市ヶ谷	1名
3	高等教育の修学支援新制度説明会	文部科学省	2019/5/20	メルパルク東京	1名
4	2019年度第1回大学職員のための(I)Rゼミナール	広島大学高等教育研究開発センター	2019/5/26	広島大学東京オフィス	1名
5	2019年度私大協東北支部事務研修会第1回運営委員会	日本私立大学協会東北支部	2019/6/7	仙台ガーデンパレス	1名
6	平成31年度私立大学等経常費補助金説明会(基礎編)	日本私立学校振興・共済事業団	2019/6/11	東北福祉大学仙台駅東口キャンパス	1名
7	平成31年度私立大学等経常費補助金説明会	日本私立学校振興・共済事業団	2019/6/12	東北福祉大学仙台駅東口キャンパス	2名
8	横浜商科大学 IR セミナー目からウロコの IR セミナー①	横浜商科大学管理本部 IR 課	2019/6/26	横浜商科大学つまみキャンパス	1名
9	私立大学退職金財団 事務担当者業務説明会	私立大学退職金財団	2019/7/2	アルカディア市ヶ谷	2名
10	私大協東北支部事務研修会第2回運営委員会	日本私立大学協会東北支部	2019/7/19	仙台ガーデンパレス	1名
11	令和元年度私学共済事務担当者研修会	日本私立学校振興・共済事業団	2019/7/23 2019/7/24	仙台ガーデンパレス	1名
12	私立学校法の一部改正に係る説明会	日本私立短期大学協会	2019/8/2	アルカディア市ヶ谷	2名
13	令和2年度大学入学者選抜入試センター試験入試担当者連絡協議会(第1回)	大学入試センター	2019/8/23	ホテルメトロポリタン盛岡	1名
14	私大協東北支部令和元年度支部事務研修会	日本私立大学協会東北支部	2019/8/29 2019/8/30	仙台ガーデンパレス	1名

15	令和元年度科学研究費助成事業説明会	日本学術振興会	2019/9/11	上智大学	1 名
16	改正私立学校法説明会	文部科学省	2019/10/7	文部科学省	2 名
17	年末調整操作セミナー	グレースシティ株式会社	2019/10/29	TKP 仙台西口ビジネスセンター	1 名
18	日本私立大学協会東北支部講演会	日本私立大学協会東北支部	2019/11/1	TKP ガーデンシティ仙台	1 名
19	学校法人の運営等に関する協議会	文部科学省	2020/1/28	品川きゅりあん	1 名
20	福島県私学振興協議会第 3 回協議会・冬季研修会	福島県私学振興協議会	2020/2/6	ホテル聚楽	1 名

■経理部

	件 名	主 催	期 日	会 場	出 席
1	高等教育の就学支援新制度説明会	文部科学省	2019/5/20	メルパルク東京	1 名
2	平成31 年度私立大学等経常費補助金説明会	日本私立学校振興・共済事業団	2019/6/12	東北福祉大学仙台駅東口キャンパス	2 名
3	学校運営管理研修会	福島県私立幼稚園・認定こども園連合会	2019/7/10	ザ・セレクトン福島	1 名
4	福島県私学振興協議会平成 30～31 年度第 5 回定例協議会並びに夏期研修会	福島県私学振興協議会	2019/8/1 2019/8/2	小名浜オーシャンホテル	1 名
5	私立学校法の一部改正に係る説明会	日本私立短期大学協会	2019/8/2	アルカディア市ヶ谷	1 名
6	高等教育の就学支援新制度説明会	文部科学省	2019/10/3	トークネットホール仙台	1 名
7	令和元年度大学経理部課長相当者研修会	私学研修福祉会	2019/10/17 2019/10/18	神戸ポートピアホテル	1 名
8	日本私立大学協会東北支部講演会	日本私立大学協会東北支部	2019/11/1	TKP ガーデンシティ仙台	1 名

■管財部

	件 名	主 催	期 日	会 場	出 席
1	2019 年度(一社)日本エスコフィエ協会総会	日本エスコフィエ協会	2019/6/10	セルリアンタワー東急ホテル	1 名

2	平成31年度私立大学等経常費補助金説明会参加	日本私立学校振興・共済事業団	2019/6/12	東北福祉大学仙台駅東口キャンパス	2名
3	エコアクション 21 フォローアップセミナー	エコアクション 21 地域事務局 環境ネットやまがた	2019/7/26	仙台市市民活動サポートセンター	1名
4	福島復興学ワークショップ in いわき	福島県イノベーション・コースト構想推進機構	2019/8/6	いわきワシントンホテル	1名
5	地域別事業活動報告交流会	私立大学情報教育協会	2019/12/9	東北学院大学土樋キャンパス	1名
6	環境人づくりセミナー SDGS の時代、どんな人材が求められるか～組織の持続性をつくる人材育成	環境省	2020/2/21	地球環境パートナーシッププラザ(国連大学)	1名

■入学事務・広報部

	件 名	主 催	期日	会 場	出席
1	郡山経済研究会	福島民報社	2019/4/17	郡山ビューホテルアネックス	1名
2	学生募集のためのセミナー	エデュース	2019/5/29	中央大学駿河台記念館	1名
3	学生募集担当者セミナー	ディスコ	2019/6/4	TKP 仙台南町通りカンファレンスセンター	1名
4	平成 32 年度大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会	文部科学省	2019/6/18	練馬文化センター	1名
5	教育 IT ソリューション EXPO	リードエグゼビジョン ジャパン	2019/6/19	東京ビッグサイト	1名
6	広報担当者協議会	日本私立大学協会	2019/8/9	アルカディア市ヶ谷	1名

■教務部

	件 名	主 催	期日	会 場	出席
1	高等教育の就学支援新制度説明会	文部科学省	2019/5/20	メルパルク東京	1名
2	平成31年度私立大学等経常費補助金説明会	日本私立学校振興・共済事業団	2019/6/12	東北福祉大学仙台駅東口キャンパス	2名
3	平成 31 年度大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会	文部科学省	2019/6/18	練馬文化センター	1名
4	令和元年度科学研究費助成事業説明会	日本学術振興会	2019/9/11	上智大学	1名

5	令和元年度(通算第 57 回)大学教務部課長相当者研修会	私学研修福祉会	2019/9/24 2019/9/25 2019/9/26	神戸ポートピアホテル	1 名
6	令和 2 年度大学入学者選抜入試センター試験入試担当者連絡協議会(第 2 回)	大学入試センター	2019/12/5	仙台国際センター	1 名
7	令和元年度教職課程認定等に関する事務担当者説明会	文部科学省	2019/12/17	学習院創立百周年記念会館	1 名
8	令和元年度大学設置等に関する事務担当者説明会	文部科学省	2019/12/19	メルパルク東京	2 名

■学生生活部

	件 名	主 催	期 日	会 場	出席
1	障害学生支援実務者育成研修会	日本学生支援機構	2019/8/22 2019/8/23	国立オリンピック記念青少年センター	1 名
2	高等教育の修学支援新制度説明会	文部科学省	2019/10/3	トークネットホール仙台	1 名
3	令和元年度日本学生支援機構奨学金業務研修会	日本学生支援機構	2019/10/4	パレスへいあん	2 名
4	2019 年度学生教育研究災害傷害保険説明会	日本国際教育支援協会	2019/10/8	仙台東京海上日動ビル	1 名
5	令和元年度日本学生支援機構奨学業務連絡協議会	日本学生支援機構	2020/2/6	パレスへいあん	1 名

■就職部

	件 名	主 催	期 日	会 場	出席
1	東北地区私立短期大学就職指導研究会	東北地区私立短期大学就職指導研究会	2019/6/13 2019/6/14	天童ホテル	1 名
2	令和元年度東北地区私立大学就職問題協議会	東北地区私立大学就職問題協議会	2019/6/20 2019/6/21	郡山ビューホテル	2 名
3	東北地区私立大学就職セミナー	東北地区私立大学就職問題協議会	2019/8/29	仙台サンプラザホール	1 名
4	令和元年度第一回保育人材対策連絡会	福島県	2019/9/26	杉妻会館	1 名

■保健室

	件 名	主 催	期 日	会 場	出席
1	全国大学保健管理研究集会東北 地方研究集会	全国保健管理協会東 北地区部会	2019/7/25 2019/7/26	福島グリーンパレス	1 名

■図書館

	件 名	主 催	期 日	会 場	出席
1	2019 年度私立大学図書館協会 東地区部会総会	私立大学図書館協会 東地区部会	2019/6/14	作新学院大学	1 名
2	東北地区大学図書館協議会フレッ シュパーソンセミナー	東北地区大学図書館 協議会	2019/7/5	東北大学附属図書館本館	1 名
3	福島県内大学図書館連絡協議会 総会	福島県内大学図書館 連絡協議会	2019/7/25	日本大学工学部	1 名
4	第 80 回記念私立大学図書館協 会総会研究大会	私立大学図書館協会	2019/8/29 2019/8/30	帝京大学八王子キャンパス	1 名
5	2019 年度図書館等職員著作権 実務講習会	文化庁著作権課	2019/9/10 2019/9/11	東京大学	1 名
6	第 74 回東北地区大学図書館連 絡協議会総会	東北地区大学図書館 協議会	2019/9/20	山形大学	1 名
7	CAT2020 説明会	大学共同利用機関法 人情報システム研究機 構国立情報学研究所	2019/9/24	東北大学農学部	1 名
8	第 26 回福島県内大学図書館連 絡協議会実務者研修会	福島県内大学図書館 連絡協議会	2019/11/26	奥羽大学	1 名

■学園教育充実家球界 SD 部門

	件 名	主 催	期 日	会 場	出席
1	セミナー参加 SD 義務化と学内・ 学外研修制度のあり方	私学経営研究会	2019/8/20	東京ガーデンパレス	1 名

■高校事務室

	件 名	主 催	期 日	会 場	出席
1	福島県私立中学高等学校保護者 会総会講演会	福島県私立中学高等 学校保護者会	2019/5/24	摺上亭 大鳥	1 名

2	第 45 回福島県私学教育研修会	福島県私立中学高等学校協会	2019/8/22 2019/8/23	いわきワシントンホテル椿山荘	1 名
3	福島県私立中学高等学校協会令和元年度協議会	福島県私立中学高等学校協会	2019/9/17	ウエディングエルティアー	1 名
4	福島県私立中学高等学校保護者会第 30 回研修会	福島県私立中学高等学校協会	2019/10/4 2019/10/5	母畑温泉八幡屋	2 名
5	第 45 回福島県私学振興大会記念講演	福島県私立中学高等学校保護者会	2019/11/14	福島県文化センター	4 名
6	令和元年度 福島県私立中学高等学校事務部会	福島県私立中学高等学校事務部会	2020/2/19 2020/2/20	母畑温泉八幡屋	1 名

■附属幼稚園

	件 名	主 催	期 日	会 場	出 席
1	幼児教育・保育の無償化及び就園奨励費補助金等の説明会	郡山市こども部こども育成課	2019/6/13	郡山市役所	1 名
2	東北地区私立幼稚園設置者・園長研修会(福島大会)	全日本私立幼稚園連合会東北地区会	2019/6/21	ザ・セレクトン福島	1 名
3	学校運営管理研修会研修①「県補助金及び学校事務の手続きについて」研修②幼児教育・保育の無償化～制度の概要と必要な準備～」	福島県私立幼稚園・認定こども園連合会	2019/7/10	ザ・セレクトン福島	1 名
4	安全管理講習会	郡山市私立幼稚園・認定こども園連合会	2019/8/5	安積学習センター	1 名
5	幼児教育・保育の無償化の給付等私立幼稚園向け説明会について	郡山市こども部こども育成課	2019/8/6	開成山野球場	1 名
6	幼児教育・保育の無償化の給付等私立幼稚園向け説明会について	郡山市こども部こども育成課	2019/9/26	郡山市役所	1 名
7	幼児教育・保育の無償化に係る私立幼稚園向け説明会について(補足給付事業・事務連絡)	郡山市こども部こども育成課	2020/1/23	郡山市役所	1 名

■家庭寮

今期該当なし

令和元年度(2019) 学園教育充実研究会委員（大学・短大部門）

部 門	委 員	所 属
FD 部門	磯部 哲夫（委員長・FD 部門 主任）	短期大学部 幼児教育学科 / 音楽科
	岡部 聡子（FD 部門 副主任）	大学 家政学部 食物栄養学科
	長田 城治	大学 家政学部 人間生活学科
	郡司 尚子	大学 家政学部 食物栄養学科
	澤渡 優喜	短期大学部 健康栄養学科
	柴田 卓	短期大学部 幼児教育学科
	松田 理香	短期大学部 地域創成学科
SD 部門	横田 英隆（SD 部門 主任）	経理部
	加瀬 洋 （SD 部門 副主任）	総務部
	高橋 一	総務部
	安齋 文明	管財部
	佐藤 利枝子	教務部
	岸本 圭生	就職部
	草野 優芽	入学事務・広報部
	村田 菜織	高校事務室
事務担当	宗形 岐恵	教務部